

学科の教育目的

キリスト教精神に則り、現代社会の多様な要請に応え、個性を尊重する保育を実現する専門性の高い社会人の育成を目的とする。

学科の教育目標

私たちの教育は、一人ひとりの命を尊び人格として尊重することを大切にし、真理を探究し続ける意思を育て、豊かな人間性の育成を目指しています。

そのため、学生が、教育・保育の専門的知識・技能を身に付け、学問や実践を通して確かな思考力・判断力・表現力を培い、自ら考え誠意を尽くし、他者と協働してよき社会人、保育者となるための教育を行います。

保育・教職課程の教育目標

大阪キリスト教短期大学の教職課程及び保育士養成課程では、子どもの最善の利益を追求する幼稚園教諭・保育教諭・保育士として活躍できる人材の育成をめざします。

具体的には幼児教育学科の目的、目標と関連して、教育学、心理学、情報教育、音楽・アート・体育の表現系分野などの専門的な学修及び演習を通して、保育実践のための的確な計画力、子ども理解に根ざした実践力を培います。更に、現代の教育・保育に関わる課題を発見し、主体的に解決しようとする力を養います。

学科のディプロマポリシー

1. 知識・理解…幅広い教養や、幼児教育・保育に関する専門的な知識・技能を習得し、子どもを理解することができる。
2. 思考力・判断力・表現力…社会の課題を見つけ、自ら考え伝え合い、問題解決を行うことができる。
3. 主体性・多様性・協働性…人権意識や倫理観を持ち、社会の一員として行動し、多様な他者と協調して社会に貢献できる。

教職課程のディプロマポリシー

1. 知識・理解…幼児教育・保育の原理、法規、子どもの心身の発達についての知識・技能を身につけている。
2. 思考力・判断力・表現力…幼児教育・保育に必要な思考力・判断力を身につけ、保育を創造的に発展させることができる。
3. 主体性・多様性・協働性…保育理論を自分なりに実践に活かし、一人一人の子どもや集団に応じた指導を他者と協働して行うことができる。

学科の学習成果

1. 知識・理解

- ① 人類の文化、社会と自然に関する知識について論理的に理解している。
- ② 専門的な知識・技能を習得し、体系的に理解する。
- ③ 乳幼児期から児童期の子どもの発達過程を理解している。

2. 思考力・判断力・表現力

- ④ 社会に関わる課題を発見し、問題解決に向けて取り組むことができる。
- ⑤ 日本語と外国語を用いて、コミュニケーションをする力を身に付けている。
- ⑥ ICTリテラシーを身に付け、モラルに則って効果的に活用することができる。

3. 主体性・多様性・協働性

- ⑦ 他者と協働しながら自ら判断し主体的に行動できる。
- ⑧ 実践技術を活用し、自己の活動を総合的に評価することができる。
- ⑨ 社会の一員として人権意識や倫理観を持つ。

保育・教職課程の学習成果

幼稚園教育・保育についての理解

- ① 幼稚園、保育所、認定こども園の指導や援助に必要な専門的な知識や技能を身に付けている。
- ② 保育者としての人権意識や倫理観を身に付けている。
- ③ 園の安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ④ 教育・保育の理念、教育・保育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得している。

乳幼児・児童についての理解

- ⑤ 子どもの心身の発達について基礎的な理解ができている。
- ⑥ 外国にルーツのある子どもや障害のある子どもなど特別な配慮や支援の必要な子どもなどに対するインクルーシブな保育を理解することができる。

他者との協力

- ⑦ 演習授業や実習、地域活動で他者と協同して実践的な子どもに関する活動を構想し、積極的に参画できる。

コミュニケーション

- ⑧ 子どもの発達過程を考慮して、適切に接することができる。
- ⑨ 子どもや他者と積極的にコミュニケーションをとることができる。

教育課程・全体的な計画に関する理解・知識・技能

- ⑩ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を理解している。
- ⑪ 教育課程・全体的な計画の構成に関する基礎知識を習得している。
- ⑫ 養護や子どもの興味・関心を視野に入れた保育の計画、実践、評価を行うことを構想できる。
- ⑬ 情報機器の活用に関わる知識を習得している。

教育・保育実践

- ⑭ 子どもとの生活や遊びを通して、主体的・対話的で深い学び(資質・能力)を見取って子どもの育ちのプロセスを捉え、援助することができる。
- ⑮ 子どもの発達や生活に即した教材研究をすることができる。
- ⑯ 子どもの発達を想定して保育を構想し、指導計画を立てることができる。
- ⑰ 子どもの保育の実際を具体的に記録することができる。

課題探求

- ⑱ 教育保育に関する課題や自己の課題がわかり、解決に向けて学び続ける姿勢を持っている。

社会的養護

- ⑲ 社会的養護の意義と児童福祉施設における保育者の役割を理解できている。

子育て支援

- ⑳ 子育てや家庭の支援について、その現状と課題がわかり保育者の役割を理解できている。

教育テックコース(DXGクラス)の学習成果

1. 知識・理解

- ① 人類の文化、社会の自然に関する知識について理解している。
- ② ビジネスに必要とされるマナーや企業価値を理解している。
- ③ 情報処理全般に関する知識・理解を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- ④ 体系的に理解する思考力と、論理的に表現する力を身に付ける。
- ⑤ 社会および自己を分析し、問題解決に向けて取り組む判断力を身に付ける。
- ⑥ 日本語と外国語を用いて、コミュニケーションをする力を身に付けている。

3. 主体性・多様性・協働性

- ⑦ 他者と協働しながら自ら判断し主体的に行動できる。
- ⑧ 社会のモラルやルールに則って行動規範を身に付けている。
- ⑨ 社会の一員として人権意識や倫理観を持つ。

カリキュラムポリシー

（１）卒業時にディプロマポリシーが達成できる科目群を配置する

本学の授業科目は履修指針表(要覧P.54～)に示される教養基礎科目、専門教育科目の開設によって、教育課程が編成されています。卒業要件で求められる教養基礎科目および専門教育科目を修得することで学科のディプロマポリシーに示される「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の各項目に示されるような資質・能力を育成します。

また、教職課程に必要な教養基礎科目及び専門教育科目を修得することで、学科及び教職課程のディプロマポリシーに示される「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の各項目に示されるような資質・能力を育成します。

（２）教育・保育の専門性を高める科目群を配置する

専門性を高めるために、本学では教職課程及び保育士養成課程の必修科目を履修することで幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格（教育テックコースは長期履修者のみ選択可）を取得でき、所定科目を履修することで、社会福祉主事任用資格を取得できます。学科必修科目や選択科目、各種プログラムでは独自の必修科目・選択科目を配置し、教育課程を編成しています。

（３）適切な教育方法と評価を実施する

各授業は授業内容に合わせて講義、演習、議論、グループワーク、課題、実習・フィールドワーク、オンライン学習などの方法によって効果的に展開されます。また成績評価は、プレゼンテーション、レポート、筆記試験、実技試験などによって行われます。各科目の学修方法、学修課程、評価の詳細については学科目概要(シラバス)に示されています。

（４）卒業や免許・資格取得のために、学びの体系性と系統性をもって科目を配列する

本学では開設科目を①**教養・基礎の学び** ②**専門の学び** ③**実践の学び**の3つのカテゴリーで分類し、2年間または長期履修3年間での学びの体系とそれぞれの科目の相互の関連をカリキュラムツリーで系統的に示しています。2年間または長期履修3年間の学びでは①**教養・基礎の学び**を土台の学びとして位置付けます。それらの基礎の上に、教育・保育・教育テックに関する②**専門の学び**が体系的に配列されています。③**実践の学び**では、①②の積み重ねの総まとめとしての科目や実習が配列されています。

教育課程は入学から卒業までの時系列の中でそれぞれの科目の系統だった配置がなされ、ディプロマポリシーに示す資質能力の獲得や免許・資格の取得を目指します。

① 教養・基礎の学び

本学の建学の精神に示されるキリスト教的人間観に基づく、人格の土台としての学びや人間と社会、教育・保育に関する原理などの学び、基本知識を広げる科目群です。教養基礎の学びとして必修科目の「聖書と現代人」や「情報機器演習1」を配列し、保育の基礎の学びとして必修科目の「教育原理」「保育原理」などを配列しています。

本学独自科目としてはこども学コースに「キリスト教保育」、教育テックコースに「こどもビジネス論」を配列しています。

② 専門の学び

教育・保育、福祉、教育テックに関する専門的な学びの科目群です。子どもに関するさまざまな支援の内容と方法に関する専門的な知識・技能を身に付けるために、講義及び実践演習や対話などを重視しながら学びます。教育・保育内容に関わる専門の学びとして「保育内容総論1」「保育心理学」、「こども家庭福祉」「教育課程論」「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現」などが配列されています。

それぞれのコースではより深い学びのための特色ある科目を用意しています。こども学コースでは、「キリスト教保育」「こどもと遊び1」「こどもと遊び2」「観察実習」「ライフマネジメント論」をコース推奨科目として配列し、そのほか、「ピアノ（基礎）」「ピアノ伴奏」「うた」「こどもとアート1」などを配列しています。教育テックコースでは、「教育テック実学1」「教育テック実学2」「教育テック実学3」「教育テック実学4」を軸として、「DX社会学」「SDGs論」などをコース推奨科目として配列しています。

自由選択の認定絵本土の称号を得る科目として「こどもと絵本1」「こどもと絵本2」が配列されています。

本学ではさらに以下の専門的な学びのプログラム、クラスが用意されています。

＝こども音楽プログラム＝

豊かな音楽観をもち、幼児教育に音楽を生かすことのできる創造性のある人材となることを目標として、音楽を通じたチームプロジェクトや心の交流によって人間としての成長を目指すため、以下の科目群を編成しています。

「幼児音楽1」「幼児音楽2」「幼児音楽3」「公開演奏」「アンサンブル（合唱・合奏）」^{注)}

注) 「アンサンブル（合唱・合奏）」は幼児音楽プログラム選択者以外の学生も選択することができる科目です。

＝こどもダンス・スポーツプログラム＝

子どもが自分の体を使って自由に表現する楽しさや喜びを味わうための指導力を備えた人材の育成を目標にします。自分自身や仲間との表現活動を楽しむことを通して子どものダンス指導について学ぶため、以下の科目群を編成しています。

「こどもとダンス」「こどもと運動」「こどもとリトミック」^{注)}「ダンス・スポーツ総合演習」

注)「こどもとリトミック」はこどもダンス・スポーツプログラム選択者以外の学生も選択することができる科目です。

=DXグローバルクラス=

コンピュータに関する知識・技能をもち、グローバルに社会で活躍できる人材の育成のために、IT企業で求められるスキルの強化をめざす以下の科目を編成しています。

「基本情報1～4」「データ構造とアルゴリズム」「情報セキュリティ」「C言語プログラミング」「JAVAプログラミング」「Webプログラミング」「CAD演習」などをクラスの必修とし用意しています。

③ 実践の学び

「教養・基礎の学び」及び「専門の学び」で身に付けた価値観や知識、技能を活かして各自の学修課題を解決し、社会や保育現場で活用するための、総まとめとして「卒業研究」を位置づけています。免許および資格取得に関わる科目として「教育実習（幼稚園）」「保育実習1（保育所）」「保育実習1（施設）」「保育実習指導1（保育所）」「保育実習指導1（施設）」などの実習科目が配置されています。「卒業研究」「保育・教職実践演習（幼稚園）」では知識・理解と共に現場体験、地域のボランティアやチームでの教育・保育の取り組みによって、社会や子どもを取り巻く現代的な諸問題を学び、他者と協働して問題解決等に取り組む能力や奉仕の精神を育成します。

それぞれのコースではより深い実践として職業体験を得られる科目を用意しています。こども学コースでは、「観察実習」、長期履修生にはこれに加えて、学外実習につながるものとして「インターン実習1」「インターン実習2」を配置しています。教育テックコースでは、「インターンシップ」を配置しています。

アドミッションポリシー

1. 本学の幼児教育学科の目的及び教育目標を理解し、子どもについて学び、専門性を高める意欲のある人
2. 他者を尊重し、コミュニケーションを大切にしようとする人
3. 自らの健康管理に努め、豊かな感性を発揮し、実践から学ぼうとする人
4. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けた人

アセスメントポリシー

大阪キリスト教短期大学は、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つのポリシーに即した評価指標に基づき、学生の学習成果を可視化し、測定・評価（アセスメント）の指標を以下のように設定します。アセスメントは教育活動の改善計画の策定に活用し、教育の質の改善に継続的に取り組みます。

三つのレベルのアセスメント・ポリシー

（１）機関レベルのアセスメント・ポリシー

学生の学位取得状況、進路状況、資格取得、学習ポートフォリオなどによって、学習成果の総括的な点検・評価を行います。学習成果の質保証を図るための体制を築いているかを確認します。

（２）教育課程レベルの学科のアセスメント・ポリシー

学科における、単位修得状況、資格取得状況、GPA、学習ポートフォリオ等から教育課程全体を通した学習成果の達成状況を検証します。それによって学生が適切な学習成果を獲得したかの査定及び期待する学習成果を獲得させるための教授方法などの改善を図ります。

（３）科目レベルのアセスメント・ポリシー

科目成績や学期末の授業評価アンケートの結果を用いて、科目ごとの学習成果の達成状況や能力の伸長、授業時間外学習について査定します。教員は各科目の目的、授業科目の特性や到達目標などを踏まえて当該科目における学生の達成を評価するための方法をシラバスに具体的に明示し、その方法によって成績評価を行います。その結果、期待する学習成果を獲得させるための教授方法などの改善を図ります。

各時期、各レベルによる学習成果のより具体的なアセスメントの手法について、次の表に示します。

〈時期の区分と検証の方向性〉

入学前・入学直後・・・アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証

在学中・・・学生のカリキュラムの達成度の検証とカリキュラム再編の検討

卒業時・・・ディプロマ・ポリシーに定める能力を身につけたかどうかの検証

アセスメントの手法

/時期区分	入学前後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル	各種入学試験 調査書 面接 志望理由書	累積GPA分布 学習ポートフォリオ 短期大学生調査 教員免許取得数 (幼稚園教諭二種) 保育士資格取得数	学位取得率 卒業生アンケート 就職先アンケート 就職状況 就職率・進学率 教員免許取得数 (幼稚園教諭二種) 保育士資格取得数 学習ポートフォリオ
教育課程レベル		GPA一覧表 学習ポートフォリオ 教員免許取得数 (幼稚園教諭二種) 保育士資格取得数 資格取得状況 履修カルテ ゼミ担当面談	学習ポートフォリオ 就職率・進学率
科目レベル		科目成績 授業評価アンケート	

卒業要件

幼児教育学科を卒業するためには、2年以上在学し、次の「教養基礎科目」と「専門教育科目」について、それぞれ卒業必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。

1. 教養基礎科目	〔13単位以上〕
2. 専門教育科目	〔49単位以上〕
計	〔62単位以上〕

なお、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得するためには、上記の卒業要件をみたすとともに、P.50以降に記載の教育職員免許法及び児童福祉法施行規則による、諸条件をみたさなければならない。

社会福祉主事任用資格について

社会福祉法第19条に基づく厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目について必要な科目を修得した者は社会福祉主事任用資格が認められる（P.54、56、61、62、64参照）。

幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得の変更について

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得を変更する場合は、所定の手続きを実習支援室において行うこと。

幼稚園教諭二種免許状を得るための単位修得方法

幼稚園教諭二種免許状を取得するためには、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則により、短期大学士の学位を有し、定められた科目（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、教科及び教職に関する科目）から規定の単位を修得しなければならない。

免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
幼稚園教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	31	

（教育職員免許法）

第66条の6に定める科目	日本国憲法二単位、体育二単位、外国語コミュニケーション二単位並びに数理、データ活用及び人工知能に関する科目二単位又は情報機器の操作二単位
--------------	--

（教育職員免許法施行規則）

本学では、下表のように定められた科目に対応する授業科目を開設しているが、最低単位数以上の、必修単位数を設定している（履修指針表参照）。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	単位数	左に対応して開設されている授業科目	単位数	
			必修	選択
日本国憲法	2	日本国憲法	2	
体育	2	スポーツ実技 体育講義	1 1	
外国語コミュニケーション	2	英語 1 英語 2	1 1	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	2	情報機器演習 1 情報機器演習 2	1 1	

科目区分	各科目に含めることが必要な事項		二種 免許状 単位数	左に対応して開設されて いる授業科目	単位数		
					必修	選択	
第二欄	領域及び 保育内容の 指導法に 関する科目	領域に 関する 専門的 事項	健康	12	幼児と健康	1	
			人間関係		幼児と人間関係	1	
			環境		幼児と環境	1	
			言葉		幼児と言葉	1	
			表現		幼児と表現	1	
		領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—	—	—
		保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			保育内容総論 1	2	
					保育内容 健康	1	
					保育内容 人間関係	1	
					保育内容 環境	1	
					保育内容 言葉	1	
					保育内容 表現	1	

	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	二種 免許状 単位数	左に対応して開設されて いる授業科目	単位数	
					必修	選択
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		保育心理学	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理解	2	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育情報学 教育方法学	2	2
		幼児理解の理論及び方法		幼児理解と教育相談	2	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼稚園）	5	
		教職実践演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	2	
第六欄	大学が独自に設定する科目		2	最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得		
計			31			

保育士資格を得るための単位修得方法

下記の履修方法・履修単位数は児童福祉法施行規則で定められたものによるが、本学では、高い保育力を修得するため必修単位数を多く設定している（履修指針表参照）。したがって、本学所定の必修科目を履修の上、卒業要件の単位修得の基準を満たしていなければならない。

（教養科目・厚生労働省告示による教科目）8単位以上（うち体育に関する講義及び実技 それぞれ1単位）

系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	時間数
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	情報機器演習 1	演習	1	30
				情報機器演習 2	演習	1	30
				日本国憲法	講義	2	30
				キャリア基礎	講義	2	30
				国語表現	演習	1	30
				ライフマネージメント論	講義	2	30
	外国語	演習	英語 1	演習	1	30	
			英語 2	演習	1	30	
	体育	講義	1	体育講義	講義	1	30
		実技	1	スポーツ実技	実技	1	30

（必修科目・厚生労働省告示別表第1による教科目）51単位以上

系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	時間数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	30
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	30
	子ども家庭福祉	講義	2	こども家庭福祉	講義	2	30
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	30
	子ども家庭支援論	講義	2	こども家庭支援論	講義	2	30
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	30
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	30
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育心理学	講義	2	30
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	こども家庭支援の心理学	講義	2	30
	子どもの理解と援助	演習	1	こどもの理解と援助	演習	1	30
	子どもの保健	講義	2	こどもの保健	講義	2	30
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養1	演習	1	30
				こどもの食と栄養2	演習	1	30
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	教育課程論	講義	2	30
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論Ⅰ	演習	2	30
	保育内容演習	演習	5	保育内容 健康	演習	1	30
				保育内容 人間関係	演習	1	30
				保育内容 環境	演習	1	30
				保育内容 言葉	演習	1	30
				保育内容 表現	演習	1	30

系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	時間数
保育の内容・方法に関する科目	保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と健康	演習	1	16
				幼児と人間関係	演習	1	16
				幼児と環境	演習	1	16
				幼児と言葉	演習	1	16
				幼児と表現	演習	1	16
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	30
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1	30
	子どもの健康と安全	演習	1	こどもの健康と安全	演習	1	30
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2	30
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	80
				保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	80
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	30
				保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	30
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2	30

（選択必修科目・厚生労働省告示別表第2による教科目）9単位以上（うち保育実習3単位以上）

系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	時間数
保育の本質・目的に関する科目				地域福祉	演習	1	30
保育の対象の理解に関する科目				キリスト教保育	講義	1	16
保育の内容・方法に関する科目				ピアノ（基礎）	演習	1	30
				ピアノ伴奏	演習	1	30
				うた	演習	1	30
				ピアノ奏法1	演習	1	30
				ピアノ奏法2	演習	1	30
				アンサンブル（合奏・合唱）	演習	1	30
				こどもとアート1	演習	1	30
				こどもとアート2	演習	1	30
				こどもと遊び1	演習	2	30
				こどもと遊び2	演習	2	30
				こどもとミュージカル	演習	1	30
				在宅保育	講義	2	30
保育実習	保育実習Ⅱ 又は 保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習2	実習	2	80
				保育実習3	実習	2	80
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導2	演習	1	30
				保育実習指導3	演習	1	30